

令和2年2月18日

感染性廃棄物を取扱う会員各位

公益社団法人神奈川県産業資源循環協会
会長 藤枝 慎治
医療廃棄物部会長 伊丹 重貴

新型コロナウイルスによる感染性廃棄物への対応について

日ごろから産業廃棄物の適正処理にご尽力いただくとともに、当協会の業務推進に格別のご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症については、1月30日にWHOにおいて「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」が宣言され、国においては新型コロナウイルス感染症対策本部設置や神奈川県においては新型コロナウイルスに関する危機管理対策会議開催等様々な対策が進められていますが、国内をはじめ世界各国で患者発生報告が続いています。

特に県内においては、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の集団感染をはじめとする感染拡大の報道があり、会員の皆様もご苦労されているところですが、感染性廃棄物の取扱いについての情報が十分行き届いていない医療機関があるとの情報がございましたので、2月17日に神奈川県環境農政局長あてに、医療機関に対し適正な措置が取られるよう別紙のとおり要望いたしました。

つきましては、感染性廃棄物の受入れに当たっては、「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル(平成30年3月)」及び「廃棄物処理における新型インフルエンザ対策ガイドライン(平成21年3月)」に従い処理されるとともに、同マニュアルで「感染性廃棄物の運搬又は処分を委託するときは、あらかじめ委託しようとする感染性廃棄物の種類、数量、性状及び荷姿、当該感染性廃棄物を取り扱う際に注意すべき事項を文書で業者に通知しなければならない」とされていることにご留意をお願いします。

「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」(平成30年3月)
(<https://www.env.go.jp/recycle/kansen-manual1.pdf>)

「廃棄物処理における新型インフルエンザ対策ガイドライン」(平成21年3月)
(<http://www.env.go.jp/recycle/misc/new-flu/index.html>)

*本日、県への要望に対する対応状況が県から届きましたので、同封させていただきます。

問合せ先
事務局 朝日、伊勢、樫村
電話 045(681)2989

表 7 廃棄物処理事業者における感染防止策（例）

業務の内容	感染防止策（例）
収集運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手袋、マスク等の个人防护具の使用 ・ 肌の露出の少ない作業着（長袖・長ズボン）の着用 ・ 積卸し作業終了後の消毒薬（携行可能な速乾性擦式消毒用アルコール製剤等）による手指消毒の実施 ・ 事務所に戻った際の手洗い及び手指消毒、うがいの実施 ・ 運搬車両の定期的な清掃及び消毒の実施
処分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の手選別や運転席が開放された状態の重機の運転等、廃棄物に接触する作業員の个人防护具（手袋、マスク等）の使用・肌の露出の少ない作業着（長袖・長ズボン）の着用 ・ 作業終了後の手洗い及び手指消毒、うがいの実施 ・ 施設等の定期的な清掃及び消毒の実施
事務所における業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接客や窓口業務等では、対人距離を保持するほか、マスク等の个人防护具の使用、手洗い及び手指消毒を実施（訪問者に対しても必要と思われる感染防止策を実施） ・ 訪問者の立入（場所、人数等）を制限 ・ 訪問者の氏名・住所の把握 ・ 従業員及び訪問者の出入口を限定し、事務所入室前の体温測定の実施（発熱がある場合、入室を禁止） ・ 事務所内の定期的な清掃及び消毒の実施 ・ 訪問スペースへの手洗い場所の設置 ・ 窓口等でのガラス等の仕切りの設置 ・ 出張や会議の削減（対面による会議を避け、電話会議やビデオ会議を利用）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤前の体温測定※ ・ ラッシュ時の通勤及び公共交通機関の回避（時差出勤、在宅勤務等） ・ 通勤時のマスクの着用 ・ 人混みや繁華街への不要不急な外出を控える ・ 帰宅時の手洗い、うがいの徹底 ・ 体調管理（十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとり、規則的な生活をし、感染しにくい状態を保つ）

※ 体温測定によりインフルエンザ様症状（38 度以上の発熱、咳、全身倦怠感等）がある場合は出勤しない等の対応をとることが重要である。

廃棄物処理における新型コロナウイルス対策ガイドライン及びQ&A

<https://www.env.go.jp/recycle/misc/new-flu/>



令和2年2月17日

神奈川県環境農政局長 様

公益社団法人神奈川県産業資源循環協会
会長 藤枝 慎治



新型コロナウイルスによる感染性廃棄物への対応について

日頃から当協会の業務推進について、ご指導、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスによる感染性廃棄物への対応については、環境省が1月22日及び同月30日付環境再生・資源循環局長通知により、都道府県知事等に対し、安全かつ安定的に廃棄物の適正処理が行われるよう指導監督を始め必要な措置の実施とともに、廃棄物処理業者や医療機関等への周知徹底を求めています。また、厚生労働省は、1月31日付医政局総務課事務連絡により、都道府県等衛生主管部局に対し、医療施設等の職員が新型コロナウイルス感染症について正しい認識を持つとともに基本的な感染症対策を含めた共通理解を深めるよう努めることを求めています。

これらの通知においては、「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」及び「廃棄物処理における新型インフルエンザ対策ガイドライン」に基づき感染性廃棄物を処理することとされており、感染性廃棄物の適正処理についての具体的な事項までは示されておりません。

現在、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」乗船者等の新型コロナウイルス感染者の拡大報道が続く中、県内医療機関の感染性廃棄物については、当協会会員が適正処理に努めているところですが、医療業務に追われマニュアルを十分確認できない医療機関から相談を受けた会員等から、感染性廃棄物の対応が適正に行われるか不安の声が協会に届いております。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、廃棄物の適正処理が円滑に行われるよう、感染性廃棄物を扱う医療機関に対し「感染性廃棄物処理マニュアル」をご周知いただくとともに、感染性廃棄物の運搬又は処分を委託する際の具体的な留意事項を文書で分かりやすく示すなど、特段のご配慮をお願い申し上げます。

なお、本件につきましては、医療機関所管の健康医療局へも情報提供していただきますようお願い申し上げます。



令和2年2月18日

福祉子どもみらい局長
健康医療局長 殿

環境農政局長

新型コロナウイルスによる感染性廃棄物への対応について（依頼）

このことについて、新型コロナウイルスが流行した場合においても、安全かつ安定的な廃棄物の適正処理を行うとともに、その事業を継続することが求められることから、令和2年1月22日付け環循適発第2001223号・環循規発第2001223号及び令和2年1月30日付け環循規発第20013027号の環境省通知に基づき、関係者への周知をお願いしたところです。

このたび、令和2年2月17日付けで、公益社団法人神奈川県産業資源循環協会会長から別添のとおり要望がありましたので、廃棄物の排出事業者としての責務を有する医療機関等に対し、改めて次の事項を周知くださるようお願いいたします。

○ 「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル（環境省、平成30年3月）」に基づき、感染性廃棄物※の処理に係る必要な措置の実施（別紙参照）

※ 新型コロナウイルスを始めとする人が感染し又は感染するおそれがある病原体が含まれ、若しくは付着している廃棄物又はこれらのおそれのある廃棄物

廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル：<https://www.env.go.jp/recycle/kansen-manual1.pdf>

○ 「廃棄物処理における新型インフルエンザ対策ガイドライン（環境省、平成21年3月）」の内容に準拠し、安全かつ安定的な廃棄物の適正処理の実施

廃棄物処理における新型インフルエンザ対策ガイドライン：<https://www.env.go.jp/recycle/misc/new-flu/guideline.pdf>

○ 所管の行政機関（上記マニュアル等の相談先）

医療機関等の所在地	行政機関及び連絡先
神奈川県 (横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市以外)	神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課 (電話：045-210-4156)
横浜市	横浜市資源循環局事業系対策部産業廃棄物対策課 (電話：045-671-2513～4)
川崎市	川崎市環境局生活環境部廃棄物指導課 (電話：044-200-2581)
相模原市	相模原市環境経済局資源循環部廃棄物指導課 (電話：042-769-8358)
横須賀市	横須賀市資源循環部廃棄物対策課 (電話：046-822-8523)

問合せ先
指導グループ 吉江
電話 045(210)1111[内線4158]

医療関係機関等の特別管理産業廃棄物管理責任者等の皆様は、

廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル

をよく読んで対応してください（以下はマニュアルの抜粋です。）。

第1章 総則 【略】

第2章 廃棄物処理に関する一般的事項 【略】

第3章 医療関係機関等における感染性廃棄物の管理

3.1 感染性廃棄物の管理体制（マニュアル P11）

医療関係機関等の管理者等は、施設内で生ずる感染性廃棄物を適正に処理するために、特別管理産業廃棄物管理責任者を置き、管理体制の充実を図らなければならない。【以下略】

3.2 感染性廃棄物の管理に関する基本的事項

(1) 処理計画の作成（マニュアル P11）

医療関係機関等の管理者等は、施設内で発生する感染性廃棄物の種類、発生量等を把握し、感染性廃棄物の適正な処理が行われるよう処理計画を定めるよう努めることとする。【以下略】

(2) 管理規程の作成（マニュアル P14）

医療関係機関等の管理者等は、施設内における感染性廃棄物の取扱いについて、必要に応じて管理規程を作成するものとする。【以下略】

(3) 処理状況の帳簿記載及び保存（マニュアル P14）

医療関係機関等の管理者等は、感染性廃棄物の処理が適正に行われているかどうかを常に把握し、処理について帳簿を作成するとともに、一定期間保存しなければならない。【以下略】

第4章 医療関係機関等の施設内における感染性廃棄物の処理

4.1 分別（マニュアル P16）

感染性廃棄物は、発生時点において、他の廃棄物と分別して排出するものとする。【以下略】

4.2 梱包・容器（マニュアル P16～17,P19～20）

感染性廃棄物の収集運搬を行う場合は、必ず容器に収納して収集運搬することになっているため、収集運搬に先立ち、あらかじめ、次のような容器に入れて、密閉しなければならない。

(1) 密閉できること。(2) 収納しやすいこと。(3) 損傷しにくいこと。【以下略】

4.3 施設内における移動（マニュアル P17）

感染性廃棄物の施設内における移動は、感染性廃棄物が入った容器を密閉して、移動の途中で内容物が飛散・流出するおそれのないように行うものとする。【以下略】

4.4 施設内における保管（マニュアル P17～18）

- 1 感染性廃棄物が運搬されるまでの保管は極力短期間とする。
- 2 感染性廃棄物の保管場所は、関係者以外立ち入れないように配慮し、感染性廃棄物は他の廃棄物と区別して保管しなければならない。
- 3 感染性廃棄物の保管場所には、関係者の見やすい箇所に感染性廃棄物の存在を表示するとともに、取扱いの注意事項等を記載しなければならない。【以下略】

4.5 表示（マニュアル P19～20）

感染性廃棄物を収納した容器には、感染性廃棄物である旨及び取り扱う際に注意すべき事項を表示するものとする。非感染性廃棄物を収納した容器には、必要に応じて非感染性廃棄物であることの表示を行うことを推奨する。【以下略】

第5章 感染性廃棄物の処理の委託

5.1 委託契約 (マニュアル P21)

医療関係機関等は、感染性廃棄物の処理を自ら行わず他人に委託する場合は、法に定める委託基準に基づき事前に委託契約を締結しなければならない。【中略】

【解説抜粋】

感染性廃棄物の運搬又は処分を委託するときは、あらかじめ委託しようとする感染性廃棄物の種類、数量、性状及び荷姿、当該感染性廃棄物取り扱う際に注意すべき事項を文書で業者に通知しなければならない。【中略】

医療関係機関等は、感染性廃棄物の処理を収集運搬業者又は処分業者に委託する場合は、事前に当該業者と書面により直接委託契約を結ばなければならない。

当該委託契約書には、次に掲げる事項についての条項が含まれているとともに、受託者が他人の廃棄物の運搬又は処分若しくは再生を業として行うことができる者であって委託しようとする廃棄物の運搬又は処分若しくは再生がその事業の範囲に含まれるものであることを証する書面（例：許可証の写し）が添付されていなければならない。

- (1) 委託する感染性廃棄物の種類及び数量
- (2) 感染性廃棄物の運搬を委託するときは、運搬の最終目的地の所在地
- (3) 感染性廃棄物の処分又は再生を委託するときは、その処分又は再生の場所の所在地、その処分又は再生の方法及びその処分又は再生に係る施設の処理能力
- (4) 感染性廃棄物の中間処理を委託するときは、その中間処理後の最終処分の場所の所在地、最終処分の方法及び最終処分に係る施設の処理能力
- (5) 委託契約の有効期間
- (6) 委託者が受託者に支払う料金
- (7) 受託者が感染性廃棄物の収集運搬業又は感染性廃棄物の処分業の許可を有する場合には、その事業の範囲
- (8) 感染性廃棄物の運搬に係る委託契約にあつては、受託者が当該委託契約に係る感染性廃棄物の積替え又は保管を行う場合には、当該積替え又は保管を行う場所の所在地並びに当該場所において保管できる感染性廃棄物の種類及び当該場所に係る積替えのための保管上限
- (9) 委託者の有する委託した感染性廃棄物の適正な処理のために必要な次に掲げる事項に関する情報
ア 感染性廃棄物の性状及び荷姿に関する事項
イ 通常の保管状況の下での腐敗、揮発等感染性廃棄物の性状の変化に関する事項
ウ 他の廃棄物との混合等により生ずる支障に関する事項
エ その他感染性廃棄物を取り扱う際に注意すべき事項
- (10) 委託契約の有効期間中に当該感染性廃棄物に係る(9)ア～エの情報に変更があった場合の当該情報の伝達方法に関する事項
- (11) 委託業務終了時の受託者の委託者への報告に関する事項
- (12) 委託契約を解除した場合の処理されない感染性廃棄物の取扱いに関する事項

5.2 再委託の基準 (マニュアル P25)

感染性廃棄物の収集運搬業者又は処分業者は、感染性廃棄物の収集運搬又は処分を他人に委託してはならない。ただし、一定の基準に従って委託する場合については、この限りではない。【以下略】

5.3 産業廃棄物管理票 【略】 (マニュアル P26)

5.4 排出事業者の責任 (マニュアル P31)

医療関係機関等は、委託基準やマニフェストについて法令上の義務を遵守することに加えて、感染性廃棄物が最終処分に至るまでの一連の行程における処理が不適正に行われることがないように、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。【以下略】

第6章 感染性廃棄物の収集運搬及び保管 【略】

第7章 廃棄物処分業者が行う感染性廃棄物の処分 【略】

参考1～12 【略】